

科目名	平和研究				
教員名	遠藤 誠治				
単位数	4	配当年次	2	開講時期	後期集中
▼ テーマ・概要・目標 ▼					
<p>現代世界では、平和をめぐる問題の構造が大きく変化しつつある。冷戦期のように人類を一瞬にして絶滅させてしまうような大規模な戦争の危険は小さくなったが、従来の方法では対処しがたい種類の暴力が世界の多くの場所で発生している。ひと言でいえば、国家による軍事力の行使の独占を可能にしていた構造が徐々に崩れ、多様な主体に暴力手段が拡散するとともに、暴力が不合理な形で暴発する状況が生まれている。こうした状況で、米国をはじめとする先進国は、軍事力に過度に依存した対応を選択してきた。そのことが、暴力への対処を困難にしてきた。</p> <p>では、新しい形の暴力に対処するためにはどうすればよいのだろうか？ その答えを見いだすことは容易ではない。しかし、これまでの平和や安全に関する考え方を根本的に再検討し、世界全体の政治経済システムの歴史や構造を現代における暴力と関連づけつつ、幅広い視点から体系的に考察を進めなければならないことは明らかである。</p> <p>本講では、上記のような問題関心から、現代世界の多様な暴力の原因を理解し、それらに対処する方法を模索するための素材を提供することを目的としている。まずは問題の現状を知るところから始め、原因の分析、様々な対処方法とそれに携わる人々の思想や運動を知るという順序で講義を進める。</p>					
▼ 授業の計画 ▼					
第1回 イン트로ダクション：平和研究の誕生・特徴・基本課題とその変容					
第2回 国家間戦争の原因と平和のための制度					
第3回 核時代の意味と冷戦下の世界的対立の構造					
第4回 現代の紛争(1)核をめぐる現代の政治経済構造					
第5回 現代の紛争(2)国家の崩壊と内戦の政治経済学					
第6回 現代の紛争(3)暴力の民営化とテロリズム					
第7回 テロリズムに対する戦争と構造化された暴力					
第8回 国際政治経済体制と構造的暴力					
第9回 開発と人権——平和への新しいアプローチ					
第10回 平和を作る運動(1)人権と平和					
第11回 平和を作る運動(2)非暴力抵抗の思想と実践					
第12回 平和を作る運動(3)開発NGOとエンパワメント					
第13回 グローバルなアパルトヘイトと平和					
第14回 理論的考察——国家・暴力・平和・民主主義・人権					
第15回 全体のまとめ					
▼ 授業の方法 ▼					
<p>講義は通常2コマ連続で行う。1時間目はその日に取りあげる問題に関する講義を行う。2時間目にはさらに必要な情報や知識を得た後、講義の内容に関連した映画やドキュメンタリーなどの映像資料を見る。講義参加者は、毎週、映像資料に関するレポートを1000字程度で執筆し提出することが義務づけられる。レポートは原則としてE-mailないしはIT's Classを通じて提出する。</p> <p>また、可能な限り、受講者による積極的発言を受けつけ、学生相互間のコミュニケーションも図りつつ講義を進めたいと考えている。</p>					
▼ 成績評価の方法 ▼					
講義の際に毎回みる映像資料に関するレポート(50%)、学期末定期試験(50%)による。					
▼ 必要な予備知識／先修科目／関連科目 ▼					
必要な予備知識はないが、受講者は毎日新聞を読むこと。関連科目は「現代の国際関係」、「国際政治学Ⅰ・					

II]、「国際政治史 I・II」などである。

▼ テキスト ▼

これに即して講義を進めるわけではないが、参照すべき準教科書的書籍として

大芝亮・藤原帰一・山田哲也編『平和政策』（有斐閣）

やや高度だが、自習用としても、研究への誘いとしても読み応えのある書物として

中村研一『地球的問題の政治学』（岩波書店、2010年）

をあげておく。

▼ 参考書 ▼

その都度指示するが、本講義の内容に即した参考書として、竹中千春『世界はなぜ仲良くできないの？』（阪急コミュニケーションズ）、児玉克哉・佐藤安信・中西久枝『初めて出会う平和学』（有斐閣）、吉田靖彦編『21世紀の平和学【第2版】』（明石書店）、小柏葉子・松尾雅嗣編『アクター発の平和学：誰が平和をつくるのか』（法律文化社）、広島市立大学広島平和研究所編『人道危機と国際介入』（有信堂）、遠藤誠治・小川有美編『グローバル対話社会：力の秩序を超えて』（明石書店）をあげておく。

また、技術革新による国家と戦争の変化に興味のある学生には、P. W. シンガー『ロボット兵士の戦争』（NHK出版、2010年）を薦める。